

「補助制動灯の装着義務化」に伴う対応商品のご案内

ハイマウントストップランプ (09年12月初旬生産分より対応)

2010年1月1日以降に新規登録される車両総重量
3.5トン以下のパントラックに義務化される「補助
制動灯の装着」に対応します。

<規制対象>

車両総重量3.5トン以下の
【ドライバン】 【温度管理車】



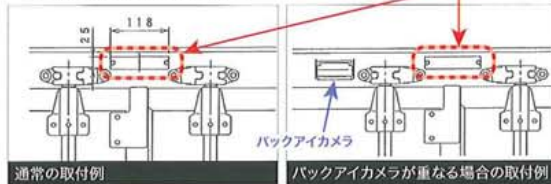
■ハイマウントストップランプ (ECE R7)
仕様: LED製ランプ (赤色) / DC12V / 75mA
材質: (ベース) ABS樹脂 (グレー)
【レンズ】耐熱アクリル樹脂 (無色透明)
サイズ: 幅118mm × 奥行20mm × 高さ25mm



ハイマウントストップランプ (ECE R7)

取付位置: ボディヘッダー部中央

※ただし、バックアイカメラ取付位置と重なる場合は、バックアイ
カメラを左に取付けることとなります。



通常取付例

バックアイカメラが重なる場合の取付例

フルハイパーヒーローズ
1965年(昭和40年)
日本で最初の「トレラー学校」が開校

大型輸送時代が来る、トレラーの時
代だ、ということでも、これの売り込
みの販売促進の一環として始まった
のが、「トレラー運転者養成学校」
全国の運送会社から派遣された
優良運転者は厚木市内の旅館に合
宿、1週間のスケジュールをこなして、
横浜市の二俣川試験場に臨んだ。
昭和40年から始まったトレラー
学校は、当初は工場敷地の奥で空
き地を利用しての練習だったが、
2年後からは4メートル道路に、
車庫入れスペースも整備されて、
本格的な教習所の体裁に整えら
れた。昭和51年まで続いたが、1回
の受講者は10名前後、とくに43
年、44年のオイルショック前の神
武景気時代は、年間3〜400名
の受講者があり、ほとんど1年中
休みなしの講習。

受講者のモチベーションが高かつ
たこと、マンツーマンの指導の成
果で、合格率は100パーセント。
晴れて職場に復帰していくわけ
だが、待っていたのはけん引免許証
に対する厚い手当てだった。
トレラー学校としても、受講の
記念にとFマーク入りの銀バッジ
を贈呈した。トラクターミナ



などで銀バッジ同士が出会って、
おたがいに懐かしい笑顔を交わす
風景もしばしばみられたという。
昭和50年代に入り、全国の主
要な試験場、教習場もトレラー
を常備するようになり、当初の目
的であったトレラー運転者養成も
軌道に乗ったため、51年に閉校。
かつて、アメリカ大陸を東から
西、北から南へと駆けめぐった大ト
レラー群。いまでは日本の道路事
業の整備、高速化に伴い、大量輸送
の中核として日夜活躍している。

日本フルハーフグループの全国ネットワーク

フルハーフはISO9001/14001の認証を取得し、環境にやさしく、高品質の製品と高信頼のサービスをお届けしています。

営業品目: アルミバン、保冷・冷凍車、ウイングトレーラー、各種コンテナ、各種部品、修理
本社: 〒243-0281 神奈川県厚木市上依知上ノ原3034 046(285)3111(代)
営業部門: 〒140-0001 東京都品川区北品川11-20-9(ウイング品川ビル) 03(3474)5720(代)
(東京事務所)
生産拠点: 苫小牧/厚木/滋賀/岡山/佐賀
販売拠点: 北海道 011(723)8750 / 盛岡 019(672)5472 / 仙台 022(783)8831 / 新潟 025(243)0520 / 石川 0299(24)1275 / 北関東 048(661)9051
東京 03(3863)8011 / 多摩 046(284)2555 / 神奈川 046(284)2107 / 静岡 076(232)5588 / 名古屋 052(532)7051
阪神 06(6390)8257 / 岡山 0869(84)4300 / 広島 082(262)2005 / 四国 087(863)6078 / 九州 0952(63)8110 / 南九州 099(284)1634



ボディとハートのコミュニケーションパーパー 日本フルハーフ

FRUEHAUF Fan

2009 Vol.10

【フルハーフ・ファン】

特集: 株式会社ムロオ



大型冷凍ウイング
ウイングエースフローズン



株式会社ムロオ
取締役相談役 山下俊夫 氏



業界 NEWS

(社)日本自動車車体工業会

車両の安全と適切な使用方法を呼びかけるマニュアル類を随時発行

(社)日本自動車車体工業会は、車両の安全と適切な使用方法を呼びかけるパンフレットを発行し、随時ホームページ上で公開しています。代表例としては「大型トレラーの車輪脱落防止のための正しい取扱について」と「冷凍機付自動車取扱いの手引き」など。

「大型トレラーの車輪脱落防止のための正しい取扱について」は、大型トレラーのアルミホイール、スチールホイールを履き替える場合の注意事項およびホイールナット締付けトルク一覧を記載したパンフレット。各トレラーメーカーの平成5年以降に生産登録された新型自動車を対象としたホイールナットの締付けトルク一覧が掲載されており、専用

のホイールボルトナットが必要なことなど、正しい取扱を呼びかけています。また「冷凍機付自動車取扱いの手引き」は、食品の定温輸送・配送業務に携わる事業者向けに、冷凍機付パントラックの正しい使い方と適切な管理の要点をまとめたものです。これらのマニュアル類は、閲覧だけでなくダウンロードも可能です。

<閲覧・ダウンロード先> (社)日本自動車車体工業会ホームページ (http://www.jabia.or.jp) > [最近の活動]ページ

日本フルハーフにおまかせ!



株式会社ムロオ
取締役相談役
山下 俊夫 氏

株式会社ムロオ
代表取締役社長
山下 俊一郎 氏

株式会社ムロオ
車輛管理課 部長
空 忠晴 氏



日本フルハーフ株式会社
西日本ブロック 広島支店
シニアマネージャー 服部 敏秀

日本フルハーフ株式会社
西日本ブロック
広島支店 佐々木 誠

今後活用の幅が広がる可能性を見据え、ウィングエースフロズンを相次いで導入

弊社ではチルド帯をメインとしながら、すべての温度帯で輸送を行います。そのため車両は全て温度管理車であり、過去には冷凍機の性能比較実験を自社で行うなどシビアな目線で車両選びを行っています。また創業以来行ってきた、システムの早期導入による日配品の輸送網構築やISO9000シリーズの取得など、時代を見据えた体制づくりも弊社の特徴と言えますが、今回のウィングエースフロズン導入も輸送体制の充実に役立つものとして、活用の可能性を感じ行ったものです。

この車両は、ウィングルフであっても走行中の冷凍性能に問題はありませんし、むしろ帰り便では常温商品をパレットによって横積みすることができるなど、常温商品の輸送にも活用できるため営業効率面でも貢献する車両です。温度管理輸送・常温輸送双方に対応できる汎用性の高さは、今後の車両導入拡大に繋がる可能性も秘めており、ウィングエースフロズンには大きな期待を寄せています。

今後主力車として位置付けていくためには、ウィングルフを開閉しフロズン商品をパレットで横積みしても庫内温度に影響が出にくいような、物流センターの設計・構造への研究が必要になると思いますが、そういった技術的なことも含め、日本フルハーフさんと一緒になって考えていければ良いですね。

30年余に渡るお取引実績 今後も役立つ商品のご提案でサポート

ムロオ様の創業当時からお付き合いを開始させていただき、現在では、ほぼ全車両に日本フルハーフのボディを採用いただいています。同社は保有車両約1200台の全てが温度管理車であり、フロズン・チルド・常温と全温度帯の積荷の輸送を行うために2室式のボディも多数採用されるなど、温度管理輸送のプロフェッショナルとして活躍されていますので、このウィングエースフロズンが日本フルハーフのラインナップに新登場した時にはすぐに情報をお持ちし、ご興味を持っていただくことができました。ご導入に繋がりました。

従来から日本フルハーフの商品に関しての貴重なご評価を頂戴していますが、今後もご意見やご感想を伺いながら、同社の輸送ビジネスに役立つより良い商品をご提供できるようにしていきたいです。



冷凍ウィングを2つの温度帯でラインナップ

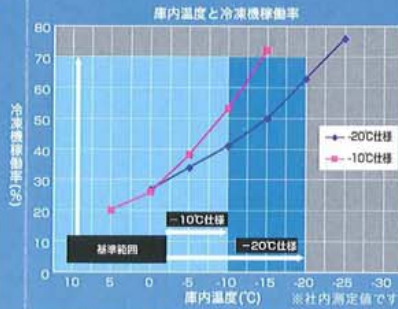
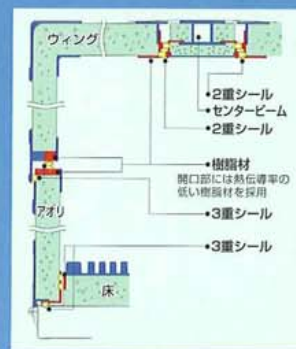
マイナス20℃仕様
R-20

マイナス10℃仕様
R-10

断熱性

実証済みの断熱ボディ

フルハーフの冷凍ウィングがフルモデルチェンジでさらに進化! 断熱材は独自のサンドイッチパネルを採用、開口部の設計と材質も見直し、抜群の断熱性・気密性を発揮します。



<改善冷凍機冷凍能力>
20℃仕様:
外気35℃
庫内-20℃時 6300W
10℃仕様:
外気35℃
庫内-10℃時 6500W

中温度管理車の性能を判断する目安として冷凍機稼働率があります。冷凍機稼働率は1時間当たり、その設定温度で冷凍機の運転時間がどれくらいになるかを表しています。一般的には70%以上となるようにボディと冷凍機を組み合わせ、その温度が管理可能な範囲としています。



特殊2重保温シールボディにより気密性が一段と向上。開口部の断熱性が格段に向上。



密着性抜群のガスケットには低硬化化しない素材と構造を採用。内板は食品輸送に最適な抗菌パネル。

軽量化

従来比-450kgの軽量化

(-10℃仕様 当社従来型比)

ボディ各所の木材レス化をさらに推進、設計自体も見直すことで軽量化と同時に耐久性も向上。トータル450kgに及ぶ軽量化により、保冷性能と併せて大幅な省燃費と、稼働性の向上を実現しました。



ドア芯材には高密度発泡材を採用し、木材レス化を実現。

アルミ型材を採用し、軽量化を図るとともに耐久性も向上。

アオリヒンジ (SUS)

床保冷はサンドイッチパネルで木材レス。アオリは軽量型クリーンボードを採用。

温管輸送のプロフェッショナル 消費者の生活を支える「ブルーラインネットワーク」と「オペレーションサービス」

同社は「ブルーラインネットワーク」と「オペレーションサービス」という大きな二つの柱を軸に、物流サービスを展開している。「ブルーラインネットワーク」は国内最大規模を誇るチルド混載便流通ネットワークで、主要地域に設けられた同社の低温物流センターと各配送センターを結び、例えば九州から中部までの配送においては発注から商品の店舗到着までを正味半日で行うなど、迅速な配送を実現。また「オペレーションサービス」はチェーンストアの流通機能や大手コンビニチェーンの地域配送などを手掛けるもので、チェーンストアの流通機能を当社が一手に担うことで中間流通にかかるコストを低減するなど、顧客企業のコスト削減に大きく貢献するサービスを提供している。

2009年9月に山下俊夫氏が代表取締役社長から取締役相談役に、そして山下俊一郎氏が代表取締役に就任。新体制のもと、さらなる事業推進をはかっている。

概要

株式会社ムロオ

本社：広島県呉市中央1丁目6番9号
設立：昭和50年7月
代表者：代表取締役 山下 俊一郎
従業員数：2500人(パート従業員含む)
車両台数：約1200台(グループ会社連結)

